



みんなはどうやって
すすめてる?

2019年度 勤労者通信大学 活用ヒント集

【経験紹介団体】

自治労連・名古屋市職員労働組合
医労連・宮城民主医療機関労働組合
島根県医療労働組合連合会
自治労連・西宮市嘱託職員等労働組合
埼玉県教職員組合
医労連・福岡医療団労働組合
長野県上伊那学習協会
自治労連・鳥取県本部
生協労連コープネットグループ労働組合
埼玉土建一般労働組合・新座支部
愛知県国家公務関連労働組合共闘会議
医労連・全日赤・沖縄赤十字労働組合
千葉土建土建一般労働組合
全医労関東信越地方協議会

もくじ

1. 私もおススメします	2
☆高知自治労連 筒井敬二さん	
☆全教・香川県教職員組合 田中和美さん	
2. 新設・入門コースの魅力	3
☆教科会員・原富悟さん	
3. 声かけのポイント	5
☆岡山県学習協・長久啓太さん	
4. 活用のQ&A	6
5. 活用経験集	7
パターン1 ☆情勢を捉え語り合える職場づくりに	
自治労連名古屋市職労、医労連宮城民医労、島根県医労連	
パターン2 ☆日常活動の強化に	
自治労連西宮市嘱託職員等労組、埼教組、医労連福岡医療団労組	
パターン3 ☆系統的な学習、次世代育成に	
長野県上伊那学習協、自治労連鳥取、生協労連コープネットグループ	
パターン4 ☆労組役員・事務局員の体制強化に	
埼玉土建、愛知国公、医労連全日赤沖縄赤十字労組	
パターン5 ☆組台で位置づけてとりくむ	
千葉土建、全医労関信地方協	
6. 受講生のこえ	27

私もおススメします！



高知自治労連執行委員長
筒井敬二さん

●みんな、社会に欠かせない一人

仕事に就き、いろんな業務をテキパキこなせるようになると、みなさんも社会の一員になったという実感を持ったのではないのでしょうか。現代社会は、みんなで社会的分業を行い、その社会に必要なものを生み出し、またサービスを提供しています。だから、みんなが社会に欠かせない存在です。

●「私はこう思う」が出发点

ところで、みなさんは、選挙には行っていますか？ 新聞を読んだり、ニュースを見たり、社会の出来事に目を向けていますか？ 友達や同僚と政治や社会の仕組みについて話し合ったりする機会はありますか？ いかがでしょうか？ 先日、高知自治労連女性部が憲法学習を行った際、「憲法を守ることは自分たちを守ること。未来を決めるのは私たち一人ひとり」という感想が寄せられました。勤通大「入門コース」テキストの第5章「私たちが未来を決める」の中にも、“「私はこう思う」が民主主義の出发点”とあります。仕事や生活に追われる日々の中で、目の前のことに終始しがちですが、働きやすい職場、暮らしやすい社会をつくっていくためには、やはり一人ひとりの学びと行動が大切です。

●「入門コース」の学びとは

「入門コース」は、社会のしくみや民主主義について、働くことや人間らしく生きることについて、わかりやすく解説してくれます。学習は、生きる力を身につけること。それは、新しいあなたに出会えることでもあります。「入門コース」を卒業する頃には、きっとそれまでとは違うあなたに出会えるはずです。みなさんの受講を大いに期待しています。思いや願いに応えてくれる講座です。



全教・香川県教職員組合
書記長 田中和美さん

私は2018年春、勤労者通信大学「入門コース」を受講します。それは、教職員組合に入って20年以上になるけれど、この4月から組合の書記長になるけれど、組合のことをじっくり分かっているか、人に説明できるか不安になったからです。

今までの私は『学習の友』（労働者教育協会編）を利用して、香教組中央執行委員会毎月1回のテキスト学習をしたり、読み切れないものを自分で読んだり、まとめてよんだりとかあやふやな学習知識しかありませんでした。

新設された「入門コース」は、①グッと入りやすく・ハッとわかりやすく、②社会の働きとしくみの核心をつかめる、③集団学習に適したコンパクトな分量。社会の仕組みや歴史を、変化の法則を学び、自分の生活に生かす！系統的な教育内容を集団の中で学習していく！人に分かりやすく伝える！そんなカッコいい自分を目指して、初心に立ち返って学習していこうと思っています。

新設・入門コースの魅力

入門コース教科委員
原富悟さん

●世代を超えて、学び合い語り合うために

職場の闘争力が弱まっている、活動家が育っていない…労働組合の現場（職場組織）から聞こえてくる声です。いま、世代を超え、活動経験の長短・深淺にかかわらず、学び合い、語りあっていくことが、労働組合の活力を高め、組織を強化・拡大していくうえで、切実に求められています。そういう労働組合運動の今日的な状況、課題に対応して、勤労者通信大学「入門コース」の活用を広げていきたいと思えます。

労働組合運動の最前線である職場は、さまざまな困難をかかえています。若い世代を結集していくための模索も続けられています。こうした状況をもたらしした背景を考えてみます。

◆かつて、労働組合のあり方や階級闘争を語っていた

1960年代から70年代の政治革新と労働組合運動の高揚のあと、労働戦線の右翼的再編が進行し、1989年には連合が結成され、階級的・民主的潮流は全労連に結集しました。そこに至る過程では、労働組合のあり方をめぐる論争が激しく行われましたが、組織的な決着とともに職場では階級闘争を語る事が少なくなりました。一方で、1980年の社公合意以降、政治戦線の右傾化が進行し、社会運動の分断が進みました。こうした状況の下で、春闘における賃上げは抑えこまれ、労働組合の組織率は70年の35.4%から今日の17%へと低下し、労働組合の社会的な影響力も後退していきました。

◆政治革新や社会進歩を語る場は…

政治革新と労働組合運動の高揚期の1970年頃には、『学習の友』は12万～13万の読者を持っていました。70年代の後半からはじまる政治戦線・労働戦線の右傾化は、労働組合の場で社会を語る場を奪い、組織率の低下は政治革新や社会進歩を語る場を急速に狭めていきました。『学習の友』も、80年には7万部、89年には3.6万部、2000年には2万部を割り込みます。

◆若者を政治から遠ざけたものは？ 政治へといざなう機能は？

政治学者の木下ちがやさんは「若者層が最も保守化していたのは『企業社会』が完成期にあった1980年代と思われる。革新自治体の衰退と革新統一の瓦解により、対抗的野党の存在が若者の視野から消え、（中略）90年代のバブル崩壊後の不況と雇用の不安定化の進行、そして保守2大政党化は、若者を政治から遠ざけ、（中略）若者を政治にいざなう機能がかつては有していた様々な社会集団（注：労働組合を含む）が衰退または解体した。（中略）社会関係のなかで政治へのアクセスを可能にする最低限の知識すら与えられていないのが若者の現状である」（『学習の友』18年1月号、p25～26）と指摘しています。

◆1980年代以降の「若者」たち

社公合意の1980年に20歳だった人は現在58歳、労働戦線再編の1989年に20歳だった人は現在49歳です。この間、労働組合の組織率の低下が進行し、しかも労働組合員であっても、多数派

の連合傘下の多くの職場では、労使協調、特定政党支持路線の影響下、階級闘争や社会進歩を語る場のない状況にありました。そうした状況におかれた1980年以降の「若者」たちは、いま、現役の全世代を構成しています。

近年、若者の「保守化」や政治離れが語られ、また、職場では若者に限らず社会や政治を話題にしづらくなっていると言われます。その背景には、こうした事情があるのではないのでしょうか。

●「入門コース」の意味

60年代から70年代初頭の労働組合運動の高揚期には、革新自治体が全国に広がり、政治革新や社会進歩を話題にする社会的な雰囲気がありました。職場でも、組合活動が目の前にあり、世間話のなかで階級闘争や社会主義が語られていました。そういう雰囲気が社会や政治に触れる契機として存在し、ある場合には、職場闘争や社会運動に「巻き込まれる」なかで、その経験が科学社会主義を学ぶ「入門」への道となっていたということもあります。当時とは大きく変化した状況の下で、いま、あらためて「入門」の位置を捉え直す必要があります。

一方で、2008年の派遣切り、2011年以降の原発問題、2015年の安保法制（戦争法）に反対する運動などを通して、若者を含めた労働者や市民の運動参加が広がっています。労働生活での体験や、政治・社会への違和感・反発から、なんらかの行動に立ち上がる人びと…そこには新たな条件での「入門」の可能性が広がります。

新たに開設された「入門コース」の第1章は、「入門」の扉の位置を、一人ひとりの労働者の生活と労働、生き様に寄り添い、手前に引き寄せています。いわば「入門へのいざない」を含めた「入門コース」として構成されています。

●全世代型の「入門コース」と活動家の「学び直し」

労働組合運動の停滞のなかでも、学習運動は根強く存在し、状況を切り拓くための努力を続けてきています。そして今、「入門コース」の扉は、現在の「若者」とともに、80年代の若者にも、それ以降のそれぞれの時代の「若者」にも開かれています。いわば全世代型の学習運動のためのものです。学習運動は、若者をはじめ、全世代を対象にした新たな領域への挑戦を開始したのです。

組合活動で長年がんばってきた活動家にとっても、あらためて、今日的な状況のなかで職場の仲間たちと語り合い、また若い世代に伝えていくための「学び直し」に役立つでしょう。「入門コース」は「知識を教える」よりも「考える力」を身につけていくことを重視しています。学習運動の広大な空白を埋めて行くわけですから、「教える」よりも「一緒に考える」ことを重視することも必要でしょう。そのなかで幾多の闘いの経験を語ることは、活動家を育てる大きな力になることでしょう。

職場の闘争力を高め、労働組合の強化と組織拡大、労働組合運動の新たな前進の時代を切り拓く土台として、勤労者通信大学「入門コース」の活用を広げていきたいと思えます。

声かけのポイント

岡山県学習協事務局長
長久啓太さん

1 戦略

働きかけの戦略、角度、方法、と整理して、考えてみたいと思います。

まず戦略です。「青年に働きかけよう」という一般的アクションだけではなく、「あの人に受けてもらおう」と個人名をあげて、比較的関心のありそうな、学習を苦だと思っていない人に、まずじっくりと声をかけることが大事ではないでしょうか。まわりに、そんな青年はいませんか。個人名をあげて追求しましょう（もしなければ、魅力的な広報に力を入れる必要があります）。

それで、まず1人の受講を得れば、「ぜひ何人かで学習しよう」という、次に声をかける範囲が決まってくると思います。

たとえば労働組合青年部に集団で受講してもらいたいとすれば、いきなり全体に呼びかけるのではなく、最初に受講を決意してもらう人をつくっておいて、会議などでその青年に「働きかける側」にたってもらう、という手もあります。

ようは、「働きかけ」にも「作戦」が必要で、青年層の人間関係、個人の傾向なども把握しておく必要があると思います。集団学習を組織して、毎回終了後に懇親会など楽しい企画をセットする手もあると思います。

2 角度

次に働きかけの角度ですが、「社会科学の入門だよ」といっても若い人にはその意味自体がおそらくピンときません。したがって、働き方や生活の話題、労働組合でかかっている要求などを入口に、その身近なことから社会の仕組み・矛盾が繋がっていることを語る必要があります。

近年、漫画『君たちはどう生きるか』が大ヒットしていますが、コベル君の等身大の経験を通して社会や生き方を考える内容だから

こそ、そのような広がりがつくられると思います。そして「どう生きるか」という直球の問いをもっている青年は、少なくないのです。

先日も、とある労働組合の青年と、どんな学習会をしたいかという相談会をもったのですが、将来不安から、お金をどうやって貯めるか・増やすかということに関心があるとの話でしたので、その切実な思いを出発点にしながら、「なぜお金がこんなにかかる社会なのか」「お金の本質はそもそもなんだろう」というティスカッションをしばらく続けました。結論的にいえば、いまの社会の動き方や本質がみえないと、へんな「がんばり方」をしてしまう、まずお金の本質を学んでみよう、ということで、学習会のテーマは「お金ってなんだろう」に決まりました。身近な問題から入って、その疑問や思いを社会科学の学習につなげていくことが大事です。

3 方法

最後に方法です。これはいつの時代でも働きかけの王道ですが、「とにかく対話する」「1対1の対話にこだわる」ことです。他の誰でもない、「あなたに受講してもらいたい」という熱意が伝わるのは、1対1の対話です。

だから、本気で青年に入門コースを受講してもらいたいならば、その対話の機会と時間を思い切って確保することが必要です。そのなかで、青年1人ひとりの現状や問題意識もつかむことができ、「次の働きかけ」のヒントも得られるかもしれません。

一般的な訴えやニュースでお知らせすることも必要ですが、最後はどれだけ青年と対話できたかです。そこに執着しましょう。そして、働きかける側の人自身が「学ばって面白いし楽しいんだ」と語れることが大事です。夢を語りあいましょう。

活用のQ & A

Q. 勤通大の学習はどうすすめればいいですか？

「集まるだけでも大変」。この事態は、過重な責任・仕事量・長時間労働という困難と、なかまに働きかけること、仲間づくりの難しさを示しています。そんな中で、諸団体役員のみなさんの代替わりも進み、「どんなふうに学習会をするのか分からない」という意見が寄せられています。

A. 単組の垣根をこえた会話

茨城自治労連青年部のみなさんは、勤通大学習会にとりくまれました。「常任委員の多くが年ごとに入れ替わるため、役員同士今まで深いかかわりを持つことが難しい状況でした。会議で集まっても協議事項が片付き次第解散してしまいましたが、学習することで、多少の愚痴や弱音など気持ちを表すうちにみんな打ち解けて、単組の垣根をこえた会話がみられるようになりました」「定期大会で退任する委員からは、『県本部青年部の活動で学んだことを単組の活動に生かしていきたい』との挨拶がありました。活動を継続しようとする気持ちは、勤通大や『学習の友』で学んだ基礎が土台にあるからだと思います」と報告されています。

A. しっかりとした位置づけ。後継者育成は待たなし。

ある医療の労組の方に、「夜勤やシフト勤務の職場で勤通大やるのは大変ですよ」と、「夜勤の上に、経営当局の半強制的な研修会・学習会が毎日のようにある。執行委員会は維持してるが、そこに行動をいくつか入れると、もういっぱい、いっぱい。学習せなあかんのは、分かっているんやけどな」、「そういわれると、どういっていいのかわかりません」、「それは、私ら現場が腹くくってやるしかない。昨年の三月に役選、四月に勤通大を」とのことです。

A. 学習のすすめ方について…

「執行委員会の中で、後に」型
「集中レッスン」型
「不定期読み合わせ」型
「個別面談フォロー」型
「地域学習会型」
「労働講座型」

など、学習会はさまざまなパターンでおこなわれています。たとえば…

◆自治労連愛知・豊橋市職労のみなさんは「集中レッスン型」。

「割り切って休日の一日を朝から夕方まで、具体的には土曜日の朝10時に受講生みんなが集まり午前に1講義（2時間）、昼食を挟んで午後2講義（2時間×2）行います。講義の終わりにはテストの解答時間も設けます。丸一日学習するわけですから、当然みんなくたくたになります。ただ、修了後には交流会（居酒屋）を設定しているのでなんとか頑張れます」と。

◆コープネットグループ労組のみなさんは、個別面談フォロー型。

「勤通大は『サポート有り』で案内し、業種や地域、コースが共通する場合は学習会を設定したり、個別の面談フォロー、メールや文書でのやり取りで修了をめざしています。日ごころからの電話やメールのやり取りや修了時の感想で受講者の受け止めに把握しています」と。

Q. 講師・チューターは、どんなことをしていますか？

A. 講師が報告し、討論するタイプがあります。

その講師は、参加者が回り持ちでする場合、労組OBや学習協の方がおこなう場合等あります。読み合わせを重視し、チューターがコメントするタイプもとりくまれています。

憲法を語り合える職場づくりをめざして

自治労連・名古屋市職労書記長 橋口剛典

◆まず役員からあらためて憲法学習をしっかりやろう

2017年に2年に1度の本部役員の改選があり、7月から新執行部体制となりました。新執行部では、安倍改憲の動きが本格化する中、自治労連が提起した「憲法学習の強化とすべての職場で憲法を語れる人をつくる取り組み」を名古屋市職労としてどう具体化するかを議論しました。そこでまず役員からあらためて憲法学習をしっかりやろうと意思統一し、勤通大の憲法コースを本部執行委員と書記局の計25名で受講することとしました。（本部執行部で憲法コースを集団受講するのは4年振りです）

◆執行委員会冒頭の30分学習

学習時間は、毎月1回、執行委員会の冒頭30分を活用しています。

私がテキストを要約したレジュメを準備し、ポイントを説明します。その後、質疑・討論をしますが、残念ながら30分間では深まった議論にならないのが実情です。秋の賃金確定闘争などで学習会ができなかった月もありますが、何とか第3章が終わったのが12月で、1月は第1回テストに取り組みました。参加者も事前にテキストを読んで参加できるとよいのですが、なかなか難しいようです。多分、レジュメをつくる私が一番勉強になっていると思いますので、私だけがその役得を独占するのではなく、今後は順番に報告者を決めていけたらよいなと思っています。（以前集団受講していた時は順番制にしていた）

◆学びが役に立った、まわりに広げたいと思える工夫を

正直なところ、勤通大の受講を本部役員だけでなく支部（29支部あります）や補助機関（青年部・女性部・現業評議会など）の役員に勧めるところまでは至っていません。

本部執行委員の中でも、今の学習方法では成果が直ちに現れることを実感できず、受講者をさらに広げる立場に立ちきれしていません。毎月1回の学習時間を大切にして、参加者が受講してよかった、役に立った、周りに広げたい、と思うことができるよう、工夫しながら後半部分の学習を進めていきたいと考えています。

◆学べば学ぶほど光り輝く日本国憲法の価値

今回あらためてテキストを読み返してみると、憲法について知らなかったこと、その素晴らしさなど、新たな発見がたくさんありました。

国連会議で核兵器禁止条約が採択され、国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」（ICAN）がノーベル平和賞を受賞するなどの新たな国際情勢に背を向ける日本政府。今、学べば学ぶほど日本国憲法の先駆性、その価値は一層光り輝いて見えます。

人類全体の宝物である日本国憲法の価値をより多くの人に気づいてもらい、改憲の策動をストップさせるために、憲法について学ぶことを名古屋市職労の中でも大きく広げていくことが急務だと痛感しています。

◆紙芝居をつくって3000万署名を推進

名古屋市職労では秋からの賃金闘争の最終交渉がようやく終わりました。3000万署名の取り組みをすすめ、改憲を阻止する世論を大きくするために、各支部、補助機関では、弁護士さん、県本部や市職労本部の役員による学習会が始まっています。

福祉支部保育園部会では、憲法署名を推進させるために紙芝居をつくり、他の支部、職場にも活用してもらおうと普及につとめています。憲法を仕事や暮らしに結びつけながら憲法について語り合い、憲法が暮らしに生きる社会の実現をめざし、名古屋市職労も全国の仲間のみなさんとともに引き続き奮闘します。



旺盛な議論のできる執行委員会に

医労連・宮城民医労書記長 鹿島 進

●若い執行委員会

宮城民医労は、ユニオンショップ制をとっており1600名を超える組織です。医療から介護、障害、保育など社会保障にかかわる職場が主となる労働組合です。本部執行委員は30名弱で構成されています。今期の役員選挙では、20代の青年が8人も選出されました。30代も7名で、半数が40代前になります。また、青年ではなくても、労働組合運動にかかわって日が浅い人もいます。今回、宮城民医労本部執行委員全員で、「入門コース」を受講することとしました。

●旺盛な議論のできる執行委員会に向けて

これまで本部執行委員については、加盟している日本医労連のテキストを執行委員に配ることや、月一の本部執行委員会で学習を行うなどしてきました。しかし、どうしても系統的な学習が行えず、青年からは「難しい会議」と言われるなど、なかなか議論にならない会議となっています。

●系統的な教育を、集団的な学習の場を

勤通大については、以前から本部執行委員の少数で受講をしていましたが、それぞれの思いでコースを選んでいるので、独習中心となり集団学習はできていませんでした。それが、今回「入門コース」というものを準備されていると聞き、これは集団で学習する機会ではないか、と考えました。特に青年など労働組合自体を知らない、まして組合用語や考え方そのものもわからないことに対してどうアプローチをするか悩む日々でしたので、まさに企画に会うテーマだと考えました。

宮城民医労青年部の一部からは「何も分からないから学習がしたい」との声が昨年出され、少数ではありますが現在ほぼ毎月1回のペースで青年の興味関心に応える形での学習を行ってきています。ただ、そこでは系統的な教育という形はあえて取らないこととしていたので、今回の「入門コース」を集団で学習することで、各個のテーマをつなげる話を青年に伝えられるようになれると期待しています。

学習はすべての活動の基礎

島根県医労連書記次長 小村智也

島根県医労連は以前より学習に力を入れてきました。執行委員会、女性委員会、青年部役員会では必ず学習を取り入れています。

学習はすべての活動の基礎となりとても重要であると考えています。とくに重視しているのは、積極的に自分の意見を発信し合うことです。『学習の友』や憲法ブックレットの読み合わせの後に、意見交換をします。学習内容が職場の現状とリンクしている点を整理し、他労組の情報を踏まえ解決策を話し合います。他労組の成功体験を参考にすると解決の糸口になるかもしれません。

医療産別で集まっているメリットを生かし、労働条件改善に向けて県医労連全体で問題意識を共有しています。一方で、学習資料としてDVDや動画共有サイト、映画等を利用しています。誰もが学習を続けられるようにさまざまなスタイルを試行錯誤しています。

学習内容は労働組合についてはもちろん、憲法や労働問題・原発・平和問題など多岐にわたります。さまざまなテーマを話し合い、医労連の方針に納得して活動に取り組む事が大事だと考えています。特に原発問題や平和問題には個人のさまざまな見解思想があり、組織一丸として行動することが難しくしています。その原因として、勘違いの知識や間違った情報等を根拠にしている事があるのではないのでしょうか。情勢を学び、ものの見方考え方、社会の仕組みを深く理解する事が物事の本質をとらえることに繋がります。正しい情報をみんなで見取り取り正確な知識へアップデートしていく学習に努めていきます。

今年は執行委員会で勤労者通信大学の入門コースにとりこんでいます。今まで私たちが続けてきた学習を各組合に持ち帰り、学習を推進する立場として成長することです。一昨年の定期大会で県医労連にとって大きな変化がありました。以前から長年の執行委員を務められた方々が交代し、若年層の役員が大幅に増えました。学習により労働組合の力を高めて、今まで以上の活動ができるようになりたいと思います。学習協の勤労者通信大学の入門コースを読み込み、来年度以降も各組合で受講する人を増やし、率先して学習を進めて欲しいと思います。

考える力を培おう

自治労連・西宮市嘱託職員等労働組合

西宮市嘱託職員等労働組合ではこの春から、勤労者通信大学を利用した学習に取り組んでいます。基本から学ぼうと、新たに開設された入門コースを受講しました。ここでは知識を身につけることよりも、考える力を培うことに重点が置かれています。冊子の中で、『YMH』という学び方が紹介されています。Y:読む、M:メモる、H:話すです。まず読む。そして気になった部分をメモし考える。さらに印象に残ったことや疑問に思ったことを周りの人と話す。この3つをまとめたものです。

この中で『話す』という部分が重要だと思います。人と話すことで、自分では気付かなかった新たな気付きを得ることが出来たり、自分の考えをまとめることができたりします。さらに仲間と共に取り組むのは、やる気や連帯感につながります。

政治や社会の問題に対し、何もしない、考えない、という選択で生きることもできます。仕方がない、自分一人が何してもムダ。そんな風に考える人が多い世の中です。日々、仕事や身の回りの問題で手一杯かもしれない。しかしその忙しさや問題の原因となっているのが政治や社会にあるのなら、目の前の問題をクリアするだけでは対処療法でしかありません。問題の根元となっている部分に、どうアプローチしていくのか。それが大切だと思います。

何のために生きるのか。どう生きるのか。それを決めるのは自分です。みんなで生き方を話し合い、大きな問題に取り組んでいく。そんな組織になれるよう、日々組合活動に取り組んでいきます。



多忙化問題の本質を学ぶ

埼教組委員長 北村純一

教職員の多忙化が、社会的な問題になっていますが、教職員が「自分の思うような仕事ができない」「なにが忙しい」と言われるようになったのは、2000年ぐらいからだと思います。とくに2006年に教育基本法が改正されて、管理と競争が露骨に見えるようになりました。評価で先生たちが縛られ、自分のやりたいことができず、校長や誰かがやりたいことをやらなければいけないなど、息苦しくなった。それがはっきりとわかるようになりました。

ですが、学習をしないと自分だけが悪いと思ってしまう。組合の役員をやっている、忙しさの解決や教育条件の整備には目がいきますが、その背景に、安倍政治が自分たちを苦しめていることが、とくに教育基本法が変えられたから、いまの状況があるということに気づかず、目先の問題だけに囚われてしまいます。

そこで今年度、中央執行委員会の前と後に学習の時間をつくろうと位置づけ、勤通大憲法コースを受講してもらおうようにしました。学習をつうじて執行委員には、教職員が働きにくいのは、あるいは意に沿わない忙しさがあるのは、政治がそうさせているのだという点です。

まだ第1章を学んだだけであり、これからに期待を寄せていますが、最初に書かれている、「押しつけ憲法」論の部分では、当時、憲法は押しつけられたのではなく納得してつくられたという事実を学んで、参加者はすこし目が晴れたという感じがします。そしてさらにこの憲法が個人の自由と信頼をとことん追求していることを徹底しているというところにも自信が持てたようです。

学校教育、学校現場は「閉鎖的」で、自分の中で完結してしまうことや、なにが原因かに気づかないまま締め付けられている状況もあります。そこに刺激というか、つながりを持つために学習を始めたところです。これからもやっていきたいと思っています。
(埼玉学習会議での発言をもとに構成)

チューター活動を成長の場に

医労連・福岡医療団労働組合書記長 田中 佑

●執行委員会の力量アップを

2017年度、福岡医療団労働組合では、勤労者通信大学の基礎理論コースにとりくみました。この間、労働組合役員の世代交代にともない労働組合活動経験の少ない若い組合員が増えてきました。青年を中心に活動できることは良いことですが、一方で基本的な労働組合の考え方や歴史、科学的なものの見方・考え方などを学ぶ機会が少なく、執行委員会の力量アップが求められる中で、執行委員会の学習として勤労者通信大学の基礎理論コースを位置付けて受講しました。

●四役がチューターを担当し、自ら学び成長する

福岡医療団労働組合では月2回開催している執行委員会で学習をおこなっています。基本的に午前中を学習の時間と位置づけてとりくんでいます。その中で、勤労者通信大学基礎理論コースの学習をおこないました。

学習方法は、労働組合四役を中心に項目ごとに担当を決めチューター役として受け持ちました。担当することで自ら学び準備し、成長すること、それ以外の執行委員全体のレベルアップにつながることをめざしておこないました。

その回ごとに内容は異なりますが、1時間の時もあれば、2時間を超えるような長時間にわたることもありました。それぞれ内容を説明し、疑問や質問などを出し合い深めます。なかなか1人では学び続けることは難しいですが、仲間と一緒に定期的に学ぶことで、継続的により愉しく学習し、深めることができました。

●物事を見る軸を、みんなで学ぶ

特に印象に残っているのは、賃金の考え方や資本主義の仕組み、搾取の仕組みについては受講者であれこれ言い合いながら、今の自分の働き方にも照らし合わせ学んだことです。

学習を通して、「仕事になれていない新入職員は、業務に時間がかかるのでその分の残業代を申請しないのは当たり前という考えを持っていたが、賃金は労働力に払われるものであり業務力量がなく残業になっても残業を申請するこ

とは当然だということを理解できた」との声もありました。

物事を見る際に軸となる考え方や捉え方をみんなで学ぶことの重要性を感じています。

●発展させたい方向、改善したい点

一方で、執行委員会の時間内で行うため、役員によっては職場の体制が取れずに参加できないという方がいました。参加できないことが複数回になり、学習できない回が増えていきました。第一回、第二回と試験を受けなければなりません。十分に学びを深めないまま、試験だけをこなすという事もありました。特に、事業所が離れている役員とは日常的に関わるのが難しく、その中でフォローは十分ではなかったと思います。

また、一度学んだからといってすぐに理解し、日々の活動に生かすというのは非常に難しいことであり、繰り返し、継続して学び続けることが必要です。そういった点に注意しながら引き続き学びたいと思っています。

また、現在は執行委員が受講していますが、執行委員だけではなく、各事業所支部の中の学びたいという組合員とも広く結びつき学べる環境を作っていくことが今後の課題になります。

●18年度、入門コースを、役員全員がチューターになって

2018度は、4月からは入門コースで学習をおこないます。

今度は四役だけがチューターをするのではなく、役員全員が担当を振り分けて学習をする予定です。役員全員が学び、チューターをすることによりお互い切磋琢磨しながら成長しあえることができると感じたからです。

4月には新入職員労働組合合宿を開催し、役員が新入職員に階級闘争の位置づけなどを説明します。プレゼンすることは非常に力があるし、どれだけ相手に伝わるか不安な面もあります。しかし、学習を繰り返すことによって自分の身体に科学的なものの見方、考え方が身につくと確信しています。今後の役員全体の成長が楽しみです、今後も経済闘争だけではなく政治闘争に力を入れていきたいと考えています。

青年が繋がる場・学ぶ場の提供として

長野県上伊那学習協事務局長 武田 浩

長野県上伊那学習協は、この間、勤労者通信大学受講生募集をはじめ、基礎学習にとりくんできました。2018年に勤通大「入門コース」がはじまり、いい教材が提供された！と感じ、学習に弾みがついた気がします。

次世代を担う青年にどう学習の機会をつくるか、これは大きなテーマです。上伊那学習協はかつて定期的に開催してきた「ヤングワーカーズセミナー」（労働学校）を中心に活動してきましたが、いつしか継続できず先の見えないモヤモヤした期間がありました。毎年開催する上伊那学習協総会で、地道でのいいので基本的な学習活動を大切にしようと提起され、勤通大のとりにくみ、『学習の友』を活用した学習会、『資本論』学習会を3つの柱にしてとりくむことにしました。

勤労者通信大学については、昨年末から地元青年の実行委員会主催の「ロウドウ学校」に上伊那学習協も参加し、とにかく「学習しよう」とスタートしたところ、単発の学習会でなく長くつづけたいとの意見があり、今回の入門コースがテキストとしてとてもいいということになりました。第1回目のロウドウ学校に集まった受講生に呼びかけ、勤通大受講を勧め何人かに申し込みをして頂きました。徐々に受講生を拡大していきたいと思います。

いま、青年を取り巻く状況はとても厳しく、長時間労働をはじめとして労働条件で悩んでいる人が増えています。ブラックな企業も相変わらずあります。何となくおかしいけれどどうしたらよいかわからない、だれに聞いたらいいかわからない、これが実態です。こうして始まった「ロウドウ学校」。勤通大入門コースは、以前の基礎コースと労組コースの両方の要素を持ち、コンパクトでわかりやすい。キーワードを見つけやすく討論になりやすいことがありがたいところ。学習を定期的に続けるために、節で適度に分けられているところもメリット。ロウドウ学校実行委員会では、ニュースを発行してこうした利点をアピールして、悩む青年に訴えかけています。

学習活動は、活動を確信持ってとりくむうえで不可欠の課題です。楽しくやること、定期的にやるのが大切だと思います。「月1回」を合言葉に継続的なとりくみをしていき、青年が繋がる場・学ぶ場の提供をしていきたいと考えています。

次世代への発展的継承のために

自治労連鳥取県本部執行委員長 植谷和則

●不満が高まっているのに分会が動けない

団塊の世代が退職し急激な世代交代が進み、また、自己責任論が社会的に流布される中で、さらに人員不足による過重過密労働、長時間労働の広がりの中で、職場における労働組合活動が停滞する事態が生まれています。

職場で労働組合として対応すべき問題が生じて、世代交代の中で、また繁忙化の中で労働組合として話し合い、所属長交渉に独自に取り組むこともできない職場が増えてきていました。こうした中で労働条件はしだいに悪化し、契約職員の退職が続くなどさらに悪循環の兆候が生まれてきました。

●労働法・基礎的理論の系統的学習を

こうした問題に対処できない理由として、管理職を上下関係で見ていて職場の分会役員の意識が委縮しているという現状があるのではないかと。この現状を打開するためにも、賃金・労働条件は労使対等の立場で決定するものであり、労働組合への団結は、その保障であること等々をはじめ、労働法や組合活動の基礎理論を系統的に学習し、職場役員等の学習の機会を作ることが必要だと鳥取県本部執行委員会で議論しました。次世代への労働組合活動の発展的継承のためにも、基礎理論の系統的学習が不可欠と考えました。

●学習懇談会を、県内3地区で

こうして、2017年7月より、学習の友社の『実践労働組合講座』をテキストにしての学習懇談会を2ヶ月に1回、県内3地区に分かれて開催しています。今後も参加者をもっと増やし、労働法や組合活動の基礎理論をしっかりと身につけて、組合員の結集と団結を強化し、組合員の切実な要求実現の活動の核となる担い手づくりに、粘り強くとりくんでいきたいと思います。

●勤通大運動を、学習教育運動を

そして、今とりくんでいる『実践労働組合講座』の学習交流を通しての労働組合活動へのより踏み込んだ主体的な実践と学習交流活動による成長を勤通大運動への参加につなげたいと考えています。

職場役員や次世代の組合活動の担い手が、社会の仕組みを学び、その変革の展望を学び確信をもって労働組合運動に挑む役員集団を形成することが、労働運動にとっても、社会変革の課題にとっても不可欠だと考えています。

これらの課題を追求する中で、鳥取県における学習協・労働者教育協会の復興を担う集団の結集の展望も切り開きたいと考えています。

勤通大は知的拠り所の提供

生協労連コープネットグループ労組中央執行委員 市川京子

コープネットグループ労働組合は埼玉、東京、千葉、新潟、群馬、栃木、茨城、長野、沖縄にわたる1万7,000人の広域労組です。働く生協・会社や業種、雇用区分の違いをこえて、コープネット事業連合関連の生協職場で働く労働者で組織しています。学習交流しながら、一致団結して、安心して働きつづけられる職場と社会実現のため、組織内外で活動しています。

組合結成時から労働組合の主役は職場ごとにある分会の一人ひとりの労組員であると位置づけ、専従や幹部請負型ではなく、自立した労組員・分会が主体的に活動できるようめざしてきました。そのためには活動の担い手づくりとしての教育が大事であると、中央執行委員には『学習の友』の購読と中央執行委員会での学習、中央役員や業種・地域の執行委員を対象に理論学習として勤労者通信大学の受講を組織しました。

勤労者通信大学は「サポート有り」で案内し、業種や地域、コースが共通する場合は学習会を設定したり、個別の面談フォロー、メールや文書でのやり取りで修了をめざしています。日ごろからの電話やメールのやり取りや修了時の感想で受講者の受け止めを把握しています。テキストには慣れない言葉が多く出てきますが、説明が事例や最新の情勢を反映しているので、受講者には自分の働き方、職場・地域からイメージしてもらうようにし、理解の手助けをしています。

●団結していくには学習が必要と、年度ごとに学習、教育を方針化

コープネットグループ労組は2012年にコープネット事業連合（現コープテリ連合会）傘下の5つの生協（現3つ）と子会社等で働く労働者でつくる3つの労働組合が合併して結成しました。生協が違う、交渉する経営が違う労働組合が合併するにあたり、企業内労働組合にとどまらず、社会的影響力をもつ産業別労働組合を視野に入れた労働組合としての活動の基本姿勢、願いを議論し「めざす姿」として確定しました。

●チューターが進捗状況を確認しながら、個別に面談やメールでフォロー 勤労者通信大学の受講の対象は、専従を含む中央執行委員や店舗、宅配など

の業種支部執行委員、千葉、埼玉、東京、群馬、新潟の地域支部執行委員です。対象者にはパンフレットだけではなく、受講の案内文の中で『学習の友』の購読の他、勤労者通信大学の受講を位置付け勧めています。地域や所属がバラバラなので基本は各自の学習ですが、チューターが進捗状況を確認しながら、個別に面談やメールでフォローしています。複数の受講生が同一支部にいる場合、学習会を開催することもあります。

●「変えていける、変えていかななくては」

みなさんが労働組合の役員をしている人たちなので、「世の中おかしいな」と思うセンスがあり、学んでみて「そうだったのか」と確信を持つようになり、喜びを実感していることが伝わってきました。知ることは楽しい、うれしいという言葉で表現する人もいます。

人類が歴史の中で勝ちとってきた普遍的な価値を、現実がそうでないからといって理想や空論として追いやるのではなく、あるべきもの、目指すべきものとして現実化していけることに確信を持ち、労働組合活動の担い手づくりにつなげるというのがポイントです。理論が分かっただけでは、変えていくための主体者や主体者を突き動かすエネルギーは生まれてきませんから。こうすればよかったという点は？

●勤通大運動は、ぶれないための知的拠り所

日本の労働組合の活動の実態はもっぱら企業内労働組合であるので、要求実現の活動は、目の前の賃金や処遇の改善に追われ、多くは職場の多数派になれない労働組合のため不当労働行為にさらされ、賃金・残業代未払い、解雇、パワハラなど法令違反の対応に追われることが多いのが現状です。活動家が労働組合活動に根本から確信を持てなければ、なかま増やしもできないし、労働組合を大きくもできません。小さな労働組合は作っても職場の多数派でなければ、組合力を発揮できず、つぶされてしまいかねません。

勤通大運動は労働組合にとって、職場や社会をあるべきものに変えていく主体者がぶれないための知的拠り所の提供ではないかと、思っています。それぞれの労働組合ではできないことなので頼りになる存在です。

役員・書記局員の体制強化と学習に

埼玉土建一般労働組合新座支部 近藤海礼

●支部役員・書記局員の体制強化と学習のために

埼玉土建新座支部（組合員数2500名）では、支部役員、書記局員の体制強化と学習のため勤労者通信大学にとりくみました。

安倍政権によって民主主義を踏みじられ、日本の平和憲法が壊されてしまいそうな情勢の中で、あらためて日本の憲法とはどういったものなのか理解することが、憲法を守る運動を進める上で大事なことだと思い、支部役員、書記局員一同で憲法コースを受講することを決めました。

●仕事に追われる仲間のために、スクーリングを

届いた教材はそれぞれに配布し、個人で学習する人もいます。しかし、日々の仕事に追われなかなか自主勉強をする時間を作れない人もいます。そんな人を対象に新座支部では前半後半に分けての2回のスクーリングを企画しました。

仕事終わりに作業着のまま駆け付けてくれる参加者もあり、若い人で29歳から最年長で64歳の幅広い年齢層の人が参加しました。

夜の短い時間のため駆け足でのスクーリングとなってしまいましたが、みんな真剣に聞いて、そのままテストも記入をしていました。

スクーリングが終わってから気になる点や、個人的に聞きたいことを、先生に聞きに行く参加者もいました。2回目のスクーリングの日程は未定ですが、全員卒業をめざして開催していきたいと思っています。

●組合員さんを引っ張っていくための知識を

普段知ったつもりでいる憲法と改めて向き合うことができ、支部役員、書記局員として、新座支部の運動の先頭に立ち組合員さんを引っ張っていくための知識を身につけることができました。

参加者からは「今年初めて勤通大を受けました。普段なにげなく入ってくる言葉の意味や仕組みを知ることができたし、聞きなれない言葉や制度も知ることができました」「言葉は知っていても、改めて深く考えることのなかったことを、分かりやすく知ることができました」という感想が寄

せられました。

●復習をどうするかが課題

やはり忙しい合間を縫ってのスクーリングのため、本来であれば1日かけてやるような内容を1時間半でやらなければなりません。どうしても駆け足のスクーリングになってしまい、じっくり先生の話聞くことができなくなってしまいます。

そのため、スクーリング後に教科書を読み返して復習することがとても重要ですが、個人差が出てしまいます。

●憲法を自分の言葉で仲間に訴えられるようになる

よくある「憲法は国民を縛るもの」という勘違いをしている人が多いので、そもそも憲法とはどんなものなのか。どういう理念で作られたのかを知ることが、憲法コース学習のポイントだと思っています。

それを知ること、安倍政権がどのように憲法を変えようとしているのか理解することができ、憲法を守る平和運動も自分の言葉として仲間に訴えることができるようになります。



世代交代の波を前に「伝承」の準備を

愛知国公事務局次長 宇野進二

愛知国公（正式名称：愛知県国家公務員関係労働組合共闘会議）は愛知県内の国家公務員・国家公務員関係労働組合の協議体です。国立大学、国立病院機構、労働局、厚生局、運輸局、地方整備局、経済産業局、産総研、国税局、税関などなど、加盟単組は20もあります。

産別組織は国公労連で、47都道府県に同じような「県国公」がありますが、それら「県国公」の中でも、毎週会議（第1月曜日は幹事会、他の月曜日は常任幹事会）を行っているのは珍しいそうです。しかし、毎週顔を合わせて話し合っただけでは、いかなければ、県労連や各種共闘団体からの要請に対応できませんし、独自のとりくみも展開できません。そんな愛知国公もご多分に漏れず、役員の高齢化が進んでいます。歴代政権の定員削減、とくに民主党政権での新規採用抑制によって逆三角形のような人員構成になっており、愛知国公の四役・常任幹事も50歳代がメインです。40代で「若手」、30代の役員は「希少種」です。これから少なくない役員が退職していきますから、急激な「世代交代」期を迎えることになります。

「世代交代」の波を前に、必要なものは「伝承」できるように準備することが必要ですが、若手が戸惑うものに、「タンソ（単組）」「シュントウ（春闘）」「サイン（最賃）」などの「組合用語」があり、そして「キンツウダイ（勤通大）」もその一つです。「勤通大」について、各単組の運動方針で見かけることはあっても、「実際に受講したことがない、教科書も見ることがない」という役員は少なくありません。それでは受講してみようということになりません。

愛知国公では、4～5年に1回くらいの頻度で、「勤通大」の集団受講をしています。毎年ではベテラン役員が嫌がりますが、これくらいの間隔なら「勤通大を受講したことがない」という役員はいなくなり、今後につなぐことができます。費用も、各単組本部・地本・支部などの補助を使えば何とかなるものです。

今回、「憲法コース」を四役・常任幹事11名で受講し、6月の常任幹事会で時間を取って第1回テスト対策の学習会をおこないました。最初は受講することさえ躊躇していた役員も、一生懸命、教科書のページをめくっています。全員で卒業できるように第2回テスト対策学習会も予定しています。愛知国公は、今年10月結成60周年を迎えます。70周年、80周年をめざすためにも「勤通大」は欠かせません。

右往左往した。でも、今、前進を。

医労連・全日赤 沖縄赤十字労働組合

●長年専従していた方が退職した

私たち沖縄赤十字労働組合は結成50年余りの歴史があり、以前は医師にも組合員はいましたが、現在はほとんど看護師、嘱託職員で組織されています。組織率も約30%と低い組合です。4年前、長年中心となって活動してきた専従の方が退職されたため、任せっきりだった役員達は組合活動のやり方がわからず右往左往しながらも、全日赤本部や県医労連の協力、支援をいただきながら何とか活動をしてきました。

●青年部も活動を再開した

役員体制が変わってからは、月1回の労使協議会を始め、開店休業状態だった青年部も活動再開し、県内外の学習会や交流会へ積極的に参加して知識や経験を重ねてきました。しかし、病院内での認知度は相変わらず低く、夏季、年末一時金の時だけは「組合、頑張ってるね」と声をかけてもらえますが、署名や要求アンケートなどはなかなか協力してもらえず、団交、旗開き、定期大会、その他のイベントへの参加も少ないので組合員との交流があまりできていません。ですから役員選出にも苦労しており、現在の委員長は、20年以上勤務している看護師ですが、3年前に組合に加入し、翌年には委員長に選出されています。定期大会で急きょ選ばれた役員もいます。

●まず、組合の基礎を学習する

そんな経験の浅い執行部でまず組合の基礎を学習するため、役員2名が「わくわく労働講座」を受講しました。他の役員たちも県医労連に講師をお願いした勉強会で学習をしてきました。2018年に入って委員長はじめ他の役員から、「団交や会議の持ち方、要求書の作り方がわからない、もっとちゃんと勉強したい」という声が出ました。1人で学習するよりみんなで学習したほうが励みになる、ということで今回、役員6名（全員で9名、うち1名は昨年受講済）で受講することになりました。

●活気のある組合を作り、より良い職場を作りたい

職業柄、仕事が忙しく学習も難しいときもあるかと思いますが、みんなで協力し合い、励ましあってがんばっていこうと思います。そして、もっと元気で活気のある組合を作り、職員と力をあわせてよりよい職場作りをしていきます。



千葉土建一般労組は勤通大をどう位置づけているか

千葉土建一般労働組合中央執行委員 小松 悠

◆千葉土建における勤労者通信大学の位置付け

千葉土建は、組合員と書記局員の学習教育を系統立ててとりくむため、2014年に参加対象や内容を定めたカリキュラムを策定しました。その一つの特徴は、組合員・書記局員とも学習の中心に基礎理論学習を据え、勤労者通信大学の受講を推進していることです。

組合員は、支部の推薦があれば修了者に対し、受講料の全額を組合から補助。書記局員は入局1年目から3年目までを対象に勤労者通信大学を“必修”と位置付けています。1年目は『労働組合コース』、2年目は『基礎理論コース』、3年目は『憲法コース』と、3年で全コースを受講・修了することを求めています。

◆なぜ、勤労者通信大学を重視しているのか—組合活動の羅針盤

基礎理論学習は、私たちが労働組合運動をすすめていくうえで、社会の出来事を客観的に正しく捉え、進むべき方向を指し示す“組合活動の羅針盤”です。

組合の役員や書記局員が、基礎理論を身に付けず組合活動を進めるといのは、『砂漠のど真ん中を地図やカーナビを持たない運転手が、“組合”という名のバスに組合員を乗せて運転するようなもの』です。目的地はどこにあるのか、どうすればたどり着けるのか、どれくらい時間がかかるのか、誰もわかりませんし、そのバスに乗せられている組合員はとても不幸だと言えます。

直近半年間の千葉土建における『組合加入動機調査』で、加入理由の1位は『建設国保の加入』で58%、次いで『労災保険の加入』が41%、この二つで99%を占めているように加入目的のほとんどは『組合の事業・制度利用』です。同じように書記局員も、この15年来ほぼ100%がハローワークから『一般事務』として応募・採用されています。

つまり、労働運動や組合活動を知らずに加入した役員や書記局員によって、労働組合の土台が支えられているのが千葉土建の現状です。

2016年度に基礎理論コースを受講した入局2年目の女性書記局員(36歳・当時)は、「考え方を見直すきっかけになった。とくに国家について、反弁証法的な考え方をしていることに気づき、考え方の根源をただす必要があると思った。自分の心を大切に、正しい知識を身につけ、まわりに流されず判断できるようにならなければと思っ

た」との感想を寄せてくれました。これは、人は何歳になっても学習によって成長できるという確信を強くすると同時に、私自身とても励まされる出来事でした。

こうした経験からも、たたかいの先頭に立ち、運動を確実に前進させる役員や書記局員は、社会のしくみや本質をしっかりとつかみ、自主性・主体性のある運動をすすめるためにも、勤労者通信大学で学ぶ基礎理論学習はとても大切だと感じています。



◆「学びたい」と思ったら、いつでも近くに“学ぶ場”がある環境に

千葉土建は、昨年およそ10年ぶりに勤通大スクーリングを開催。コースごとにテストの回数にあわせた集団学習を実施しました。また全組合員が学べる千葉土建労働学校は、6年ぶりにテキストを全面改訂します。組合員に『学ぶ楽しさ』『知るよろこび』を広げ、勤通大の受講につなげると同時に、支部や分会などの機関会議で短時間でも日常的な学習の定着をめざしています。

昨年18年ぶりに復活した千葉県の地域労働学校では、次年度にむけて県内いくつかの地域でも独自開催にむけた動きが出てきています。

このように組合員が「学びたい」と思ったら、いつでも近くに“学べる場”がある環境づくりが大事だと思っています。これは私自身が社会に出たときに、基礎理論を学ぶ場がほとんど皆無だった経験から、できるだけ多くこうした場所を提供していきたいと考えています。

◆入門コースで、青年たちの学習合宿を

4月に新設された勤通大『入門コース』では、県内の青年を集めた1泊2日で学び・交流する『学習合宿』で、集団受講をしようと計画中です。こうした学習が千葉土建の各機関でしっかり位置づけられ、広くとりくまれることは組合運動の質を高め、要求実現の速度を早める大きな力になると確信しています。引き続き、勤労者通信大学の受講促進をはかっていきます。

全医労若手精鋭チームの学習会

全医労関東信越地方協議会 野村昌弘

(1) どんな位置づけでとりくんでいますか？

勤通大は、全医労関信地方協（組織人員は4500名、1都9県です。組織率は、各支部でバラバラですが、平均して3割程度かと思います）の青年部（25名）の中から、やる気のある（やってみたいが一人じゃ無理）層をあつめて、「スクーリングあるから、必ず卒業できるよ、落ちこぼれないよ」との「売り言葉（?）」にのせられた若手精鋭が受講しています。

このうち2名が全医労本部の組織拡大推進を担う「闘争委員」として後に選出されることになりました。

(2) 学習会はどんな形でとりくんでいますか

スクーリングは、青年部の会議の前後で行います。関信管内から多数集まるので、このタイミングでしか集まりません。1泊の会議だと、夜はみんなで交流もするので、なかなか時間がとれず、2回目スクーリングはまさに眠い目をこすっての「早朝スクーリング」でした。

やり方は、自宅で1回、受講前にもう1回を範囲を区切って、教科書を黙読してもらってます。終わったら、講師からのポイントをホワイトボードで講義形式で解説します。

全員から1回はコメント発言をもらうようにしています。参加型の方が、理解が深まるので。

(3) 学習会が、受講されたみなさんにとって、良かったことは

自宅で読んでしまったく頭に入らないと、こぼしていた受講者も、講義前の黙読時には、ホワイトボードに「〇〇について、どう書いてあるかな？」など、問題意識を書いておくことで、かなり頭に入りやすいそうです。

ですが、自宅で1度読んだだけでは、テストは解けなかったようで、「これは一人でやったら、確実に挫折していた…」との怖いコメントも頂きました。

集団受講を基本としないと、卒業を保障してあげられないですね。

(4) 学習上のポイントは？

歴史観に触れながら解説しています。

そもそも〇〇は、戦前は違ったんだよ～、など興味を引くように。

2回目では、戦前は間接税が中心で、戦後は平和憲法の実現の観点から直接税をGHQが指導してね～、だから〇〇とか～

と講義するなど、税制や国家予算と平和の問題が参加者の頭の中でびったりくっ付ける内容にしています。

(5) こまっていることは？

関信管内の青年で幅広く集めるため、講義の時間が極めて短いことです。なかなか、たっぷりとれない。

職場単位であれば、もっと丁寧に時間をとって講義ができたと思います。ですが、職場単位の受講を待っていると、いつまでも受講が広がらないので、葛藤でした。

(6) 「全労連トラブルメイカーズ・スクール」のワークショップも

この他には、青年部の会議の中で、時間をとって「全労連トラブルメイカーズ・スクール」のワークショップを行いました。（労働弁護団が発行のレイバーノーツの教科書をつかい）二人一組になって、質問だけで相手の要求を引き出すトレーニングです。

組合歴0年目の青年でも、相手の要求を引き出して、組合加入につなげるところまでをシミュレーションできたのが、良かったです。



感想集(2018年)

・初めて組合の仕事にたずさわる人にはちょっと難しいところもあったようですが、執行委員会の前段でやる勉強会で分かりづらいところは先輩が教えるなどして、みんなでがんばりました。今後もこのテキストを用いて組合の事、情勢等を新しい職員に伝えていきたい。

(宮城・男性・55歳)

・もっと早くに学ぶべきだったと思います。労働者としても組合の活動のためにも社会の歴史や人権、民主主義、ものの見方考え方、一人一人の力を合わせて自分たちの未来をつくるという内容を学び、知ることが力になるということが少しわかったように思います。

(長野・女性・65歳)

・学生時代に勉強した時よりも自分に直面している問題で考えさせられました。

(大分・男性・33歳)



・シンプルに面白いと感じた。今の社会の成り立ちや現状を知ること、今まではなんとなく聞き流していたようなニュースにも耳を傾け、興味、関心を持てるようになってきた。また、学習会での他の人の意見や感想を聞くことで今まで自分では持てなかったような視点での見識も深められ、視野が広がったように感じる。

(新潟・男性・27歳)

・社会の中、生活の中、職場の中、いろいろなところに問題はあると思うが、それを問題だと考え、気づくことが私たちは苦手、できていないと感じました。気づくこと、それを話し合って共有することで仲間ができて行動につなげる。そういう当たり前ができるようにこれからも勉強していきたいと思いました。

(青森・女性・31歳)

・「ここは大事、あつこつちも大切な言葉！」と赤線ばかりの私だけの大切なテキストとなりました。学ぶ楽しさを久しぶりに感じる時間となりました。まだまだ学びが浅く、消化不良のことも多いけれど、知りたい、学びたい意欲を高めていきたいです。自分も変化するし、社会も変わる。そのことに確信を持ってすすみたいと思います。

(岩手・女性・42歳)

・最後の「私が変わる、社会も変わる」のところはこの年になって改めて私が与えるべきことは何かを考えさせてもらいました。職場がゆっくりみんなで話し合う時間が無いと言う環境だから、やっぱり立ち止まり議論することが大切だと思いました。自分が変わらないと始まらないと。この学習は良いきっかけとなりました。(和歌山・男性・59歳)

・テキストの冒頭で科学的社会主義という言葉が登場し、非常にとっつき難い印象をうけた。しかし、読み進めると生活の質についてや労働者の権利についてなど、自分の生活や人生に直結する内容であることがわかり、積極的に学ぶべきことだと感じました。(高知・男性・24歳)

・入門コースは労働組合活動の基本、ポイントが書いてあり、活動経験の短いものにも重要なメッセージが詰まっており、良いと思いました。(東京・男性・43歳)

・たいへんよくできたテキストだと思います。基本的なことでも項目もすくなめですが、学校教育や一般的な社会教育の場では知る機会のない知識を身につけることができれば、その人の人生はおおきく変わることができ、より味わい深いものになるこ

とでしょう。ぜひ、若い皆さんにおすすめてほしいと思います。(長崎・男性・65歳)

・社会や政治のあたりまえに変化をつくりだしていくのは私たちであること。そのことに私たちの未来があるのだと思えるようになりました。私たちが変わっていきながら、私たちの望む未来を一緒につくるために活かしていきたい。(徳島・男性・36歳)

・このテキストは私が普段感じている生きづらさがある背景を教えてくださいました。貧困によって苦しんでいる人はその人のせいではない、ブラック企業で働く友人も、この生きづらさは社会の仕組みに原因があることを学びました。私はこのテキストから学んだことをもとに自分の身の回りの生きづらさについて周りの人と話し合いたいです。(北海道・女性・22歳)



・入門コースにふさわしく、生きづらい社会の中であって、身近な事象を通してどのように社会を見てどのように考えていけばいいのかが、そんなヒントがちりばめられていました。教職員である私や私のまわりの人たちの多くは「労働者」としての意識が民間で働く方々と話をしていると違うと感じることが度々あります。第2章、第3章で「労働」「資本主義社会」「歴史」などを学んだことは社会進歩を目指していく上でとても参考になりました。(大阪・男性・46歳)

・このコースの内容は「もっと前に知っておきたかった」というのが正直な感想です。人間らしく生きること、人権のこと、憲法の事、民主主義の事、労働や組合の事などすべて歴史的に解説していただいているので理解が深まりました。(長野・女性・77歳)

・入門コースを勉強するまでは普通だと思っていたことでも色々勉強することによって普通ではなく、資本家側のみが得をする社会になっていたと感じました。労働者が対等の立場になることが、本当の豊かな社会になると感じましたので、労働組合の活動を通じて組合員などに広めたいと思いました。(東京・男性・50歳)

・世界大戦の反省がどのような反省から平和主義へ変化したのかは人間の本质とその移り変わりを考える意味で学習したかったのですが、よい本など見つからず、すごくためになりました。5章では今後何をかたり、何をうたえればよいのかが、よいヒントになりました。それを見つけるには今後の学習にががっていますが、何を学習すればよいか目標ができました。入門コースはすごくよいテキストだと感じました。(埼玉・男性・54歳)

・「勤労者通信大学って何?」「入門コースってどんなことが学べるの?」という素朴な好奇心から扉を開きました。赤旗読者歴30年ですが、今回学んだことにより、一層新聞を深く読めるようになった気がします。職場や地域の中で、人権や民主主義を否定する具体的事例については、「そうだ!」「そのとおり!」と共感しながら読み進めました。憲法を守り、暮らしに活かしさえすれば、みんなが人間らしく暮らせる世の中になるんだ、答えは簡単なんだと思いました。(東京・女性・61歳)

・普通に生活しては入ってこない学習ができ、とても自分のためになったと思います。(愛媛・男性・29歳)

受講生のこえ 憲法コース

・今回、あらためて前文を読み、何度も何度も読み、暗記したいと思うくらい感動しました。歴史の真実をひもとき伝えていかなければならないと強く思いました。

(北海島・女性・66歳)

・日本国憲法を正しく理解できていないこと、その成り立ちについてよくわかっていなかったことがまだまだあることに気づきます。この夏、図書館から借りた書籍も拾い読みしながら、このコースを学ぶことができました。(北海道・女性・61歳)

・憲法が日常の中でどんな場面でも密接にかかわっていることに新たな発見があり、こんなに身近にあったんだと思いました。今まで断片的に憲法について知っていた気がします。なかなか理論的には説明できなかったし、自分の中だけで理解するだけで相手に伝えることは難しいと思っていましたが、少しだけきちんとした言葉で話せるようになったかなと思います。(千葉・女性・60歳)

・この教科書は学習会を通じてこそ理解できるのではなからうか。学んだことを自分の言葉で広く伝えていくこと、多くの人たちに知ってもらうことが大切だと痛切に感じました。

(香川・男性・68歳)

・憲法を守るために学習することが武器になる。様々な情報が行きかう現代において情報を取捨選択することが大切である。私たちは正しく普遍的な知識を持っていなければ改憲派に勝つことはできない。学習を継続することが大切だと思う。

(埼玉・男性・31歳)

・今回の学習を通して憲法の意味、あり方についてある程度理解ができたと感じました。今までは国民が守るべき法律のようなものという感覚だったのですが、権力者にしほりをかけるものという文章が自分の中の憲法観を変えたように思います。改憲に向けて世論が動きつつあるので、この憲法のあり方を広めていけるようなたたかいをおこなっていきたいと思っています。

(埼玉・男性・30歳)



受講生のこえ 労働組合コース

・めまぐるしく変わる生活状況、職場状況の中、子どもの成長は目に見えてわかる。しかし、自分はどうだろうか。目の前のことに流されてきた面があるのではと思えた。職場では要求をガガゲ、団体交渉をしてきたが、目に見え改善が得られたわけではない。労働組合の役割を理解して活動できていたのだろうか。もう一度ちゃんと労働組合について勉強しようと思ったことが受講の動機。学んだこと、一つずつでもこれからの活動に生かしていきたいと思う。(長野・女性・46歳)

・「なぜ働くのが」ということを考え、見つめなおすとても身になるコースだった。自分の生活をよりよくしたいと思うのは当然だが、そのためには今の環境にただ身を任せるのではなく、自分の考えや思いを共有し、組合や地域とともに考える意識を持ち、とりくみたい。(千葉・男性・35歳)

・労働組合コースで学んだことは多くのマスコミ報道や新聞などでは国民に伝えられておらず、目に見え耳に聞える情報だけが全てではなく、目には見えない、あるいは耳に聞えない真実に常に意識的に目を向け続けることの重要性を自身の教訓として、ともにたたかう仲間にも伝えて今後の運動にまい進したい。

(神奈川・男性・48歳)

・最近専従になり、外から見ていた労働組合を内から見るようになったことで労働組合に対する印象がかわりました。誤解と言うか思い込みのようなものがあったのですが、例えば「政党から独立」した自主的で大衆の組織ということは中に入って学習するまでは理解できませんでした。家族や職場の仲間も今までの私と同じように考えている人が多くいると思います。これからはまず私自身がより労働組合について学習し、その魅力を家族や職場の仲間みんなに発信して大きな力の1つにできていけたらと思っています。

(東京・男性・47歳)

・労働問題と「貧困と格差」のところが自分により引き付けて受けられた部分でした。「何か苦しいな」とか「おがしいな」となんとなく思うことは実はとても大きな問題につながっていて、みんなが学びあって団結し、声をあげることが解決につながる一歩なのかなと思いました。知識を定着させるには、再度の読み返しと復習をしないとダメだと思います。今後もニユースを正しく読みとけるような「ものの見方」を意識していこうと思います。

(神奈川・女性・41歳)

発行：労働者教育協会/勤労者通信大学

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4
電話03-5842-5644 FAX03-5842-5645